# DANCING JEWEL

## GREENLINE 45 FLY

世界初の量産ハイブリッド車プリウスが発売されたのは1997年。
その後、テスラが市場にEVロードスターを納入し始めたと同じ2009年に、革新的で環境に配慮し、
「責任あるボートの未来を作る」スロベニアのボートブランド「**GREENLINE Yachts**（グリーンライン）」のハイブリッドボート
「**GREENLINE 33**」のワールドプレミアが行われた。
そして20年後の2019年、熟成と進化を進めた「**GREENLINE 45 Fly**」を発表。
エコフレンドリーなボートを牽引するGREENLINEが、世界で注目を集めている。

text: Yoshinari Furuya　photo: Makoto Yamada
special thanks: OKAZAKI YACHTS　https://okazaki.yachts.co.jp

エコクルーザーを標榜するビルダーとは思えない軽快な走り。荒れたコンディションにもかかわらず、IPS600のパワーが躍動感のあるマニューバを描く。

## エコフレンドリーな設計思想で地中海に旋風を巻き起こした「GREENLINE」
## 優雅なスタイリングにリュクスなインテリア、そして30ノットの軽快な走りに魅了される

2019年、カンヌヨッティングフェスティバルにおいてアンベールされ、世界に新たな衝撃を与えた「GREENLINE 45 Fly（グリーンライン45フライ）」。世界的なボート需要の増加に対し、パンデミックのロックダウンや半導体などパーツ不足、戦争などの社会的要因による生産能力の低下が多くの工業製品に影響をあたえている。そんな状況の中、GREENLINE 45 Flyがついに日本上陸をはたした。

*

GREENLINE 45 Flyの外観は、45フィートクラスとは思えないボリュームある船体。全長は、バウスプリットを持たないデザインでありながら、15.57mとクラス最大級の長さ。垂直に近いステムと高さのあるバウデッキに加え、チャインより上部は船首近くからワイドに広がり、バウキャビンの広さを生み出す合理的なハルデザイン。45 Flyを目の当たりにすると、想像を超える船首部のボリュームを感じさせる。また、フライブリッジ後部のフルビームを使ったイーブスと、エクステリアを印象付けるワイドなピラーにより、後方からの見た目もクラスを超える存在感を示している。そのデザインされたピラーは、GREENLINEのキャラクターを作り出すだけでなく、大きく張り出したフライブリッジの強度を上げ、アフトデッキを覆い、雨や日差し、風からデッキを守る役目をはたしている。また、ピラーで囲まれることで、家族やゲストに安心感を与え、安全性を高め、プライバシーも高めている。

機能的でありながらこれらの個性的なデザインを描くのは、イタリアの隣スロベニアのJ&J Design。2009年に発表されたファーストモデルGREENLINE 33から始まり、今までに発表したGREENLINE全てのモデルの設計やエクステリアデザイン、ブランディングや建造技術などを手がけている。GREENLINE 33は、これまで21の世界的なアワードやデザイン賞を受賞し、当時無名だった新興ビルダーとしては異例の550隻以上の建造実績を持つ。その成功は、伝説となっている。

J&J Designは、1983年にスロベニアの首都リュブリャナに設立されたデザインオフィス。スキー板で日本でも馴染みがあるスロベニアのELAN社のセールボート設計からスタート。その後、世界最大級のボートビルダーJEANNEAUのデザインを担当し、セールボートに続きJEANNEAUグループのラグジュアリーボートブランドPRESTIGE Yachtsも設計。他にも、ドイツのBAVARIA YachtsやイタリアのAZIMUT Yachts のAtlantisシリーズなど、50以上の世界的なプロダクションモデルをデザインし、60,000隻以上を進水。また、ボートヨット本体の設計だけでなく、最新のマテリアル技術やハイブリッドシステムなどのサポートも行う高い技術と経験を持つナーバルアーキテクトだ。

そして、45 Flyでは、スーパーヨットや建築デザインを手がけるMarco Casaliがインテリアデザインに加わる。Marco Casaliが率いるローマのToo Designチームが、GREENLINE 45 Flyにラグジュアリーなスーパーヨットの世界を取り入れている。

大型モーターヨットと変わらないリュクスなエクステリアもGREENLINE 45 Flyの魅力でもある。乗船は、1,460mm後方に伸びる広い昇降式のスイミングステップ。テンダーやレジャーとして使うインフレータブルのディンギーを搭載するには充分な広さだ。トランサムボードは油圧で上下に大きく開閉し、SEABOBなどマリントイを格納できるガレージが現れる。トランサムボードと一体のアウトドアキッチンは、

ハッチを開けると、ミニシンクやBBQグリルが現れる。海水浴、マリントイの発着、テンダーの昇降、BBQランチなど、トランサムが、アンカリングで過ごすデイタイムの中心になる。

トランサムから左右のステップを通り、イーブスで覆われたアフトデッキに上がる。トランサムと一体のソファや固定のチークトップテーブル、左右ブルワークには大型のクリート。ヨットクラスと変わらないエクステリアが揃う。サロン側には、アフトデッキにサーブできるバーカウンタースタイルのオープンキッチン。これは、他モデルでも人気のGREENLINEが得意とするレイアウト。ポートサイドのドアは2つに折れ、大きく開閉。スターボード側は、上部のウィンドウが天井に沿うように跳ね上がりカウンターが現れる。サロン側に倒されていたカウンタートップの一部を、デッキ側に開くことで、250mmアフトデッキ側に飛び出した奥行き850mmのカウンターが完成する。

1,300mmのワイドなカウンターはL字のギャレーと一体になり、アフトデッキを含めたメインデッキの中心的存在に。ギャレーにはシンクの他に、1950年創業の大手家電メーカーgorenjeのオーブンレンジやエレクトリックコンロが並ぶフルスペックのギャレー。対面のポートサイドにはリフリジェレーターやフリーザー、ストレージが配置され、サロンにもサーブしやすいレイアウトは機能的。ギャレーがパーティーの中心になる。

アフトデッキとバリアフリーで繋がるギャレーエリア。その前方は

トランサムボードと一体の幅2,100mmのソファと、1,600mm×740mmの大型チークトップテーブル。スイミングプラットフォーム側には、BBQグリルとシンクが備わるアウトドアギャレー。ロアヘルムの横のサイドスライドドアが、サイドデッキとロアヘルムをシームレスで結ぶ。

アフトギャレーの前方はサロンエリア。フロアは250mm高くなり、大型のサイドウィンドウから視界が広がる。大型のU字ソファは、テーブルを下げ、専用クッションをはめればダブルベッドとして使うことができる。

アフトデッキとアフトギャレーをつなぐGREENLINEの中で最も人気の高いエクステリア。リアウィンドウを跳ね上げ、カウンターを広げれば、バーカウンターが完成する。

250mm高くなるサロンエリアとゾーニングされている。コクピットはサロンと同一フロア。ポートサイドには4人がゆったりと座ることができるU字のソファと大型センターテーブル。アイポイントが高く、大型のウィンドウからは周囲の風景がよく見える。センターテーブルは、最下部まで降ろしクッションをはめれば、エクストラのダブルベットとして使うこともできる。そのU字ソファの対面には3人掛けのベンチソファ。大型TVを搭載し、収納を増やすキャビネットを選ぶこともできる。

スターボードサイドの前方には、2人掛けのベンチシートスタイルのヘルムシート。座面の一部を上げ、リーニングスタイルでフットレストに足をかけ体を安定させる。このスタンディングヘルムは、視認性も良く操船がしやすい。フロントウィンドシールドの手前には、12インチのディスプレイが2台並べられる大型パネル。ヘルムステーションの中心には上下するステアリングホイール。その右側にはスロットルやジョイスティック、バウスラスターのコントローラーを配置。サイドスライドドアから半身を乗り出すポジションもしやすく、サイドデッキから手を伸ばしコントロールすることもできる。さらに、スライドドアからサイドデッキにアクセスできるだけでなく、スライドドアのすぐ側にはブルワークが切り取られたサイドハッチを配置。ハンドレールは切り離され、安全に桟橋にアクセスできる。ショートハンドに最適なレイアウトやハンドレールやドアの収納など、美しく機能的な操作系が、ボートをよく知るキャプテンの心を鷲掴みにする。

サロン前方のステップからロアフロアに降りる。正面のドアはバウキャビン。クイーンベッドを中心に、ウォッシング&ドライマシンが備わるウォークインクローゼットやデイヘッドと兼用のバウキャビン用のヘッドが備わるラグジュアリーなゲストキャビン。ベッドの手前は2,010mmが確保された高目のドッグハウスで覆われている。サイドのオープンポートハッチ以外に、ドッグハウスの正面や左右の壁面の大半を使ったスクエアな窓。3方から光が降り注ぎ、窓に合わせ下げられたブルワークにより、左右方向の風景も広く楽しむことができる。

ロアデッキのミジップにはフルビームのマスターステートキャビン。専用ヘッドは明るくシャワーブースも広い。2段下がった中央にはキングサイズのベッド。ベッド部分の天井は下がりヘッドクリアランスは低めだが、ベッド周辺の歩くスペースは2,000mm以上の高さが確保され、ベッドの左右やソファ、クローゼットにアクセスしやすい。そして、スターボードサイドにはウォークインクローゼット。クローゼットの奥にはデスクとチェアが備わるワーキングルーム兼パウダールーム。原稿の執筆やオンライン会議など、落ち着いて仕事に集中できる空間が嬉しい。このクラスには珍しい空間利用だ。この「ロアデッキA」タイプ以外に、バウキャビンのウォークインクローゼットとワーキングルームのスペースの代わりに、ゲストルームを増やすオプションもある。ベッドタイプの違うBタイプかCタイプから選ぶことができる。

マスターステートルームにはキングサイズベッドと個室のワーキングルーム。VIPキャビンにはクイーンサイズベッドとクローゼット内のランドリー。アコモデーションもヨットクラス。

フライブリッジのウェットバーには、シンクやアイスメーカーの他に、人気のBBQグリルが装備されている。最後尾にはフルビームを使った2,600mmのワイドなL字ソファ。ヘルムステーションの横には1,660mm×1,500mmのサンベッドが広がる。

フライブリッジもGREENLINEのアイデンティティが表されたもの。それは、ルーフ全体をフライブリッジとして使わず、バウ側の3分の1にソーラーパネルを標準で装備。最大1.98kWの電力をバッテリーに供給し、CO2やノイズを発生させるエンジンに頼ることなく、キャビンライトやフルサイズのリフリジェレーター、フリーザー、エレクトリックコンロ、オーブン、そしてエアコンを駆動。陸電のないクルージング先やアンカーリング時のボートライフを快適にする。

*

横浜ベイサイドマリーナを出港。気温6℃、北東の風5～8m/sが北寄りの波を寄せる。今回のボートのパワートレインは最もパワフルなVOLVO

PENTAのIPS600 ×2基。440hp×2のパワーと高効率なPODドライブが、30ノットのトップスピードを可能とする。YANMARのインボードエンジンを選ぶこともでき、トップスピードはそれぞれ、250hp×2で15ノット、320hp×2で20ノット、370hp×2で25ノット、440hp×2で29ノット。スピードを重視するか、燃費を重視するか？ どの推進力を選択しても最適なパフォーマンスが得られるという。

ラフな海面に向かい、スロットルを上げていく。1,000rpmでは6.2ノット、2,000rpmでは10.2ノット。2,500rpmでは16.5ノット、3,000rpmでは23.1ノット。Maxの3,500rpmでは、悪条件の中、メーカーが発表するデータに近い29.4ノットを記録。経済性を重視した半滑走型のボートをイメージしていたが、その予想は大きく外れ、驚きに変わる。曳き波のほとんどない排水型のような走りからパワフルに加速。バウをほとんど上げることなくスムーズにプレーニングに入る。ハンドリングもよく、急旋回時でも最小の減速でスムーズに立ち上がる。PODドライブのバランスもよく、ボリュームあるトローラー的なスタイリングからは想像できないスポーティなマニューバを描く。

パワートレインは、VOLVO PENTAのIPS600×2。440馬力×2の最強パワーで、29.4ノットを記録する。揺れを抑えるジャイロはQUICKのmc2 X16。船に弱いゲストにも優しい装備が搭載されている。

30ノットの高速走行を可能にする、滑走に適したボトムデザイン。一方で、5ノットの低速では超低燃費の航行を可能にする排水型の走り。そして、エレガントなスタイリングと、リュクスでルーミーなインテリア。GREENLINEがビジョンとする「革新的で環境にやさしい責任あるボートの未来」、その答えがGREENLINE 45 Flyに込められている。***P.B.***

**GREENLINE 45 Fly**

**全長**　15.57 m
**全幅**　4.57 m
**喫水**　1.10 m
**重量**　13.50 ton
**エンジン**　2× VOLVO PENTA　IPS600
**最高出力**　2× 440 HP
**燃料タンク**　1,450 L
**清水タンク**　600 L
**問い合わせ先**　オカザキヨット
TEL: 西宮0798-32-0202、横浜045-770-0502
https://okazaki.yachts.co.jp

YouTube　YouTube